

MGI016-P01

会場:コンベンションホール

時間: 5月27日17:15-18:45

極域関連メタデータベースとナショナルデータセンター (NADC) の現況

Present Status on Science Meta-Database and Japanese National Antarctic Data Center (NADC)

金尾 政紀^{1*}, 山内 恭¹, 岡田 雅樹¹, 門倉 昭¹

Masaki Kanao^{1*}, Takashi Yamanouchi¹, Masaki Okada¹, Akira Kadokura¹

¹国立極地研究所

¹National Institute of Polar Research

国際協力と分担を基本理念とする南極観測をはじめ、両極域で得られた学術データ情報の提供、とりわけデータベースの構築・公開・配布などの基盤整備が関係各国に強く求められている。こうした状況で、50年にわたり極地で蓄積された地上観測、地球観測衛星や船上観測等によるデータを効率的、安定的に保存管理し、国内外の研究者がネットワーク経由で容易に利用できるように、文字情報・数値データの所在情報(メタデータ)を「極域科学データライブラリシステム(POLARIS)」で公開している。学術資料のメタデータには、南極域での長期モニタリング観測をはじめ、プロジェクト研究や北極域の様々なデータが含まれる。南極観測に関する定常官庁を含めたメタデータの数は、現在までに日本語版で計113件、英語版で124件である。また国際対応として、南極データマネジメント委員会(Standing Committee of Antarctic Data Management; SCADM)の要請に応じて、国内の極域関連データの主要な提供元(National Antarctic Data Center; NADC)として極地研内の「極域データセンター」が機能し、極地研データベースと同じ内容のメタデータを、NASA/GCMDの南極マスターディレクトリー(Antarctic Master Directory; AMD)内へ登録している(計171件)。北極マスターディレクトリー(Arctic Master Directory)も平成20年4月より開始した。さらに、国際極年2007-2008(International Polar Year; IPY)に関するメタデータ集積も、別途進行中である(計118件)。

キーワード:メタデータ,ポータルサーバ,ナショナルデータセンター,南極マスターディレクトリー,南極データマネジメント委員会,国際極年

Keywords: Metadata, portal server, National Data Center, Antarctic Master Directory, SCADM, International Polar Year